

偕楽園好文亭の整備について

— 偕楽園好文亭の更なる魅力向上を目指して —

■ 事業目的

偕楽園は、1842年（天保13年）に水戸藩9代藩主 徳川斉昭によって創建された庭園であり、その中心にある好文亭は、好文亭本体と奥御殿の2棟が連なる木造建築物であり、水戸空襲や落雷により2度の焼失し、昭和47年に復元した施設であります。

この好文亭を良好な姿で後世に残していくことと、利用者の安全を確保することを目的に耐震補強工事を実施し、また、通年型の観光拠点として更なる魅力向上を図るため、飲食などの呈茶サービスを実施しました。

■ 事業概要

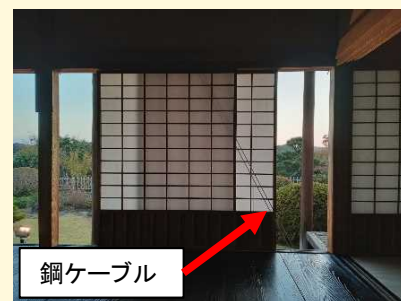
- ・ 建築面積：好文亭本体 304㎡ 奥御殿 338㎡
- ・ 建物規模：木造建築
- ・ 整備期間：令和元年度～令和3年度
- ・ 整備内容：[耐震補強]
 - ・ 屋根裏水平構面ブレース設置
 - ・ 高張力鋼ケーブル設置（障子の間）
- ・ [厨房設備改修]
 - ・ 給排水設備整備
 - ・ 厨房施設設置



好文亭空撮（耐震補強後）



屋根裏 補強状況（水平ブレース設置）



障子の間 補強状況（高張力鋼ケーブル設置）

■ 事業効果

令和3年度に耐震補強が完了したことにより、利用者の安全性が確保されました。

また、厨房設備の改修により、通年型での「呈茶サービス」が提供できるようになったことで、好文亭から見える景色を楽しみながら、気軽に休憩できるようになりました！



（好文亭呈茶サービス）



（カフェ「楽」メニュー（一例））

偕楽園入園者における
好文亭観覧者の割合

